

山崎

平成23年
生神金光大神大祭号
(東日本大震災復興祈願)

vol.109

2011.10.23

金光教山崎教会 / 発行
649-6235 和歌山県岩出市西野234
電話 0736 (62) 1106
ファックス 0736 (63) 2043
ホームページ <http://konko.pos.to/>
メール konko@pos.to

ご大祭をお迎えして

教会長 明渡真幸

稔りの秋を迎え、共々にご大祭をお仕えさせていただきまして、ありがたいことでございます。おめでとうございます。本日のご大祭は、例年の「生神金光大神大祭」と共に「東日本大震災復興祈願」と「紀伊半島台風被害復興祈願」の願いを込めてお仕えさせていただきます。

ご本部にありましては、10月2日～10日にかけて



仕えられた4回のご大祭にて、ご祭主、教主金光様が祭詞の中で次のようにお祈り、お届け下さいました(口語意識)

今の厳しい世界情勢の中にあって「世界・人類の助けかりに向けて、金光大神の信心を求め、現す。それはまた、おかげの自覚をもとにして、信心生活を進め『神人の道』を開くこと」として取り組んでいる諸々の教団活動の上におかげ蒙りますように。また一つ一つの教会は、生神金光大神取次の広前として、人を助け人を育て、信心の道を伝え、拡げ行くという働きを日々現させて下さい。信奉者達は教祖さまのみ教えを頂き、信心生活に励ませていただき、勢をそろえて信心運動に取り組ませて下さい。

東日本大震災や大きな災害を受けた人々は、復興へ

の歩みを確かに歩ませて下さい。

各地よりご霊地に参り来た人々、はるか遠くから遙拝する人たちに至るまで、ご大祭の神ひれいをこうむり、各教会の生神金光大神大祭においても同じ願いのままに麗しく仕え、全教挙げて『神と人とあいやかけよで立ち行くあり方を世界に顕現する』とのご神願成就のお役に立たせて頂きますようお願い申し上げます。

今日のご大祭を、金光様がお祈り下さった同じ願いのもと、お仕えさせて頂き、共々におかげ蒙らせて

祭典次第

1. 着座

1. 開帳(警蹕)

1. 拝礼

1. 「神前拝詞」奉唱

1. 献饌行事

1. 取次唱詞

1. 祭主祭詞奏上

1. 祭主玉串奉奠

1. 「天地書附」奉体

1. 玉串

1. 「金光大神賛仰詞」奉唱

1. 「親神のよぎしのままに」斉唱

1. 拝礼

1. 退下

教話(教会長)

さなえ会 コーラス(「ふるさと」一緒に歌って下さい。4頁参照)

終了の挨拶

「あたらしいのち」斉唱

10月4日、ご大祭時の本部境内

頂きたいと存じます。

今日の日を頂いているという喜びの心をお礼にあらわし、難儀に苦しんでいる人々の助かりを祈りつつ、更に更に元気にご用に使用していただきましょう。風評等に惑わされることなく、ちょっとした思いやりを持ち、さらに行動にあらわし、あなたも私も、お互い様、共に助かる道を教えていただいていることをありがたく頂きつつ、尚も至らぬ所は、お取次を頂いては改まりに改まり、本当の信心、生神金光大神の信心にならせていただけるよう、祈りを込めて、おまつりをお仕えさせていただきます。

どうぞしっかりとおかげ頂いて帰って下さい。



10月4日 ご本部大祭時の教祖さま奥城(おくつき)

生神金光大神大祭をお迎えして

信徒会長 竹田 昌平

暑かった夏を無事過ごさせて頂き、実りの秋を迎え、今日、生神金光大神大祭を皆さま方と共に元気にお迎えさせていただきますことを、心よりお喜び申し上げます。

教祖様は、若い頃から熱心なご信心をされ、家業である農業の合間を縫って神社などにお参りすると共に、当時の信心の主流であった、日柄方位を熱心に見立てて頂き、進む方向を決めていた。ところが家族親族、また家族同然の飼い牛が2年続いて同じ月日に死に、合せて7墓築くという当時最も恐れられていた金神の崇りに合われた。またご自身も42歳の年に、医者も手を離す九死一生の大病にかかられるのですが、普通でしたら自分には何も落ち度がない、悪くないのになぜと言うところを、教祖様は、ご自身の今までやって来られたことについて、それで良いとは思っていない。凡夫の身で何処にどのようなご無礼が有るやわかりませんと、ひたすら詫びぬかれたところから

助かりの道が開けたのであります。そこに人間中心の考えから、神様中心の考えへと変わられ、神様第一の御信心となり、何をすることも神様と共に、あいよかけよの信心生活へと進んで行かれたのであります。

翻って見たときに、如何に我々人間は、自己中心、人間中心の我欲の世界であることかと思わずにはいられない。3年前のアメリカのリーマンショックという金融破綻などは代表的な出来事である。経済発展とは、額に汗して働いてこそ価値のあるものであるのに、金に物をいわせて金儲けをする。あまりの強欲資本主義である。今だ盛んな中国のバブルもしかり。嘆かわしい限りである。我々人間は地に足の着いた地道な行動でなければいけない。人間の力で生み出したと思っている全ての物の元は、天地の親神さまからのお恵みを受け、人間が手を加えただけのことであることを深く理解し、感謝して日々の生活を送りたいものである。このありがたいご信心は教祖様が並々ならぬ御苦勞を下さり、進めてこられ、我々に教え伝えて下さったのことであります。をしっかりと頂き、今日のご大祭をお仕えさせて頂き、信心を進め、ここからのご用とさせて頂きたいと考えています。本日は誠にありがとうございます。



立教聖場(10月4日)

旭川教会 110年記念祭 参拝について

来年5月13日(日)の旭川教会110年祭。参拝旅行は3泊4日で計画をしています。今年初めから、旅行積立をして下さっている方も8名おられます。その方達と相談の上、最終日程を決めます(5/11~5/14案 または 5/12~5/15案)。費用は10万円~12万円位(交通費・宿泊費)で行きたいので、第1次切りを年内として、とりあえずの人数をまとめたいと思います。人数が多い方が移動費が安くなります。参拝希望者は、年内に教会長までお知らせ下さい。

東日本大震災復興への祈り

東日本大震災 慰霊復興祈願祭

金光教東北教区東日本大震災慰霊復興祈願祭が、9月25日、宮城県松島町、中央公民館にて350人の参拝のもと行われました。

第一部では津波で被災した石巻教会、多くの信奉者が被害に遭った気仙沼教会、原発事故の影響を受けている福島教会の各教会長先生の発表があり、第二部は祭典。祭典ではステージに設けられたご神前に、震災で犠牲になった方々（当日現在、死者15,804名）の氏名を記した霊神簿ほうせんが奉遷され、次のように祭詞が奏上されました。

これの宮城県松島町中央公民館に天地書附掲げ奉り、生神金光大神、天地金乃神の御前に、東日本大震災で、不覚も亡くなられし15,804柱の霊達の霊神簿を供え奉りて、謹み敬ひも白さく。

平成23年3月11日午後2時46分、その時大地のおおゆ大揺るがしあり、海が鳴り、地が動き、大津波押し寄せ、人が流され、数多の命失せ、瓦礫に埋もれ、波間の陰に隠れし多くの行方不明者増し、更に科学技術の粋を集めたる、東京電力福島第一原子力発電所にては、未曾有の災害起こり、土地と空気は汚れ、農地も漁場も失われ、難を逃れし被災者にありても、その苦悩計り知れず、加えて放射性物質の拡散は、日々の生活を脅かし、心穏ひになる暇も無く、時は傷つきし心と身をも癒やすといえども、家族を失い仕事を失いし、厳しき現実に癒やされる間もなし・・・

（以下 意識）

無念の死を遂げた大勢の霊様の道立とと共に、東北の尊き礎の霊様としてお働きいただけますよう神様にお願い申し上げます。

天が下の人間はみな、天地金乃神様の愛し子として生かされているにも関わらず、天地の道理を忘れ、神様と人間、天地と人間の関係がほころび、「何事も人間の方で行う」として、人は行き詰まり、助かり難い難儀となる姿こそ、親神様のお苦しみであります。『世が開けると言うけれども、開けるのではない、こわれるのぞ』というみ教えを忘れ、勝手な世界をますます拡げてきたこれまでの人間のあり方を、深く反省させて下さい。ここからは『神様は人間を救い助けようと思っておられ、このほかには何もないのである』『信心

しているがよい、みな末のおかげとなる』との神様のみ心を頂き、人を思う心と、苦難を分かち合う心をつないで、昼夜分かたぬ復旧を成し遂げさせていただきます



ようお願い申し上げます。

祭典後の第三部では佐藤教務総長が「東日本大震災・半年を経ての祈り」と題して講話された。（講話要旨は金光新聞10月16日号参照）

私共も引き続き、震災復興への祈りを共にし、被災者の方々の立ち行きと、復興復旧活動にご苦労下さる方々の努力の報われますようお祈りすると共に、復興復旧活動して下さっている、教内各団体への支援活動を行って参りたいと思います。どうぞご協力の程よろしくようお願い申し上げます。

10月20日現在 教会広前に設置の募金額380,300円。内34万円を「本部義援金」「金光教大阪災害救援隊」「金光教少年少女会復興支援団」「金

光教フォーゲル災害支援」に送らせていただいております。それぞれの活動報告はいつでもご覧頂けます。(募金箱横の冊子に綴じております)

教会夏まつり

7月30日(土)今年で約30回目を迎える「教会夏まつり」を行いました。例年にも増して、ご近所の若い家族が遊びに来て下さり、ゲームや食事、踊りやクイズ大会を楽しんでくれました。



また、まつりに先だって女性部によりバザーが開催され、ご信者皆さまが持ち寄って下さった品物は、ほぼ売り尽くされました。



バザーの売り上げすべてと、青年会さなえ会の夜店の売り上げの一部から、金光教平和活動センター「一食を捧げる運動」に6万円が送られ、東南アジアの恵まれない子どもたち支援に役立てられます。東日本大震災義援金にも協力させていただきました。

ふるさと

うさぎ追いし かの山
小鮒(こぶな)釣りし かの川
夢は今も めぐりて
忘れがたき ふるさと

いかにいます 父母
恙(つつが)なしや 友がき
雨に風につけても
思い出(い)ずる ふるさと

こころざしを 果たして
いつの日にか 帰らん
山はあおき ふるさと
水は清き ふるさと

山崎教会の主な祭典日程

年末感謝祭 12月29日(木) 1:30
元旦祭 1月1日(日) 6時・9時
新年祭(お雑煮) 1月3日(火) 1:00

ご本部参拝の予定

報徳祭・年末お礼参拝(バス)
12月11日(日)

ご本部新年参拝(新幹線団体)
1月7日(土)

【申し込み注意 11月末〆切り】

月参拝(乗用車) 毎月随時

恒例行事

青年会&さなえ会 大祭反省会
(ラシーヌ)
11月5日(土) 午後7時

ボウリング大会&忘年会
12月18日(日)